チュチェ思想問答

チュチェ思想問答

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ101(2012)

1．チュチェ思想は一言ではどう表現できるのか？

チュチェ思想とは一口に言って、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるという思想である。言いかえれば、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命を切り開く力も自分自身にあるという思想である。

2．チュチェ思想はどのようにして創始されたのか？

チュチェ思想は社会主義朝鮮の始祖金日成（キムイルソン）主席（1912 － 1994 年）によって創始された。

1920 年代の半ば、日本の軍事的占領（1905 － 1945 年）に抗して祖国解放のたたかいに踏み出した金日成主席は、朝鮮革命の新しい道を模索するなかで、チュチェ思想の起点をなす真理を発見した。

主席はこの革命闘争の実践的経験と教訓にもとづいて発見したチュチェ思想を、1930 年 6 月、中国卡倫における共青および反帝青年同盟

の幹部会議で明示したのである。

3. チュチェ思想の起点は何か？

チュチェ思想の起点の一つは、革命の主人は人民大衆であり、したがって人民大衆のなかに入りかれらを教育し、組織化することによってのみ革命は勝利するということである。

いま一つは、革命は誰かの承認や指示によってではなく、自己の信念にもとづき、自らの責任によっておこなうべきであり、革命で持ち上がるすべての問題を自主的かつ創造的に解決していかなければならないということである。

4. チュチェ思想はどのように深められ、発展したのか？

チュチェ思想は、金正日（キムジョンイル）総書記によって全面的に深められ、発展させられた。

総書記は、チュチェ思想は哲学的原理、社会・歴史原理、および指導的原則を基本的内容として構成されていることを明らかにした。総書記がチュチェ思想を全一的に体系化し深奥な原理と諸命題をもって豊かに発展させた結果、チュ

チェ思想は人類自主偉業の偉大な指導思想として広く公認されることになったのである。

5. チュチェ思想は、その哲学的原理で何を明らかにしたのか？

　チュチェ思想はその哲学的原理で、チュチェ思想の基礎原理と人間の本質的特性を明らかにし、世界における人間の地位と役割を解明したうえで、世界にたいする人間中心の見解と観点・立場を明らかにしたのである。

6. チュチェ思想が提起した哲学の根本問題は何か？

　チュチェ思想は、世界で人間が占める地位と役割にかんする問題を哲学の根本問題として提起した。

　チュチェ思想は、世界の始源にかんする問題がマルクス主義により唯物論的に解明された前提のもとで、世界と人間との関係問題、つまり世界における人間の地位と役割にかんする問題を哲学の根本問題として新たに提起し、それに科学的な解答を与えたのである。

７．チュチェ思想の基礎原理は何か？

チュチェ思想の基礎原理は、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するということである。

チュチェ思想のすべての体系と内容の基礎には、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという哲学的原理が置かれている。

8．人間があらゆるものの主人であるというのはどういうことか？

人間があらゆるものの主人であるという原理は、世界における人間の地位を解明したものである。

人間があらゆるものの主人であるというのは、人間が世界と自己の運命の主人であるということである。

人間が世界の主人であるというのは、人間が周囲世界に従属して生きるのではなく、自己の意思と要求に即して世界を自己に奉仕させながら生きる、世界の支配者・改造者だということである。

人間が自己の運命の主人であるというのは、人間が自己の運命に責任をもち、自分の意思に

もとづいて運命を切り開いていく存在だということである。

9. 人間がすべてを決定するというのはどういうことか？

人間がすべてを決定するという原理は、人間が世界を改造し変革するうえで果たす役割を解明したものである。

人間がすべてを決定するというのは、世界を改造変革し自己の運命を切り開くうえで、人間が決定的な役割を果たすということである。

人間が世界の改造で決定的な役割を果たすというのは、世界の改造発展に作用するさまざまな要因のなかで、人間が決定的な要因として作用するということである。

人間が自己の運命を切り開くうえで決定的な役割を果たすというのは、人間の運命に影響を与える要因のなかで、人間自身の役割が決定的な作用をするということである。

10. 人間があらゆるものの主人であるという原理と人間がすべてを決定するという原理は、

どのように関わりあっているのか？

人間があらゆるものの主人であるという原理と人間がすべてを決定するという原理は、人間が世界において占める主人の地位と世界の改造発展に果たす決定的な役割とを解明した原理として、互いに切り離すことのできない関わりあいをもっている。

人間が世界に占める主人の地位は、人間が世界の改造発展に果たす役割によって裏うちされ、人間が世界の改造発展に果たす決定的な役割は、人間が世界で占める主人の地位によって規制される。

人間は世界で主人の地位を占める最もすぐれた有力な存在であるため、世界の改造発展で決定的な役割を果たし、そのことで世界に占める主人の地位を不断に高め、世界にたいする支配を拡げていくのである。

11. チュチェ思想によって明らかにされた、社会的存在とは何か？

チュチェ思想は人間にたいする哲学的考察をおこなうにあたって、人間が社会的存在であ

るということに起点を置いている。

人間が社会的存在であるというのは、人間が社会的な集団をなし、相互に社会的関係を結んで生き活動する存在だということである。

チュチェ思想における社会的存在という言葉は、人間の本質的特性を規定する固有な意味として用いられている。

12. チュチェ思想によって明らかにされた、人間の本質的特性は何か？

チュチェ思想は、人間を社会的存在だとする観点にもとづいて、人間の本質的特性を新たに解明した。

チュチェ思想が明らかにした人間の本質的特性は、自主性、創造性、意識性である。自主性、創造性、意識性は他の物質的存在には見られない人間に固有の特性である。

13. 自主性とは何か？

自主性は、世界と自己の運命の主人として生き発展しようとする、社会的人間の属性である。

自主性ゆえに、人間は自然と社会のあらゆる

束縛・従属に反対し、すべてのものを自己に奉仕するように変えていく。

人間は自然の束縛と社会的従属を甘受せず、これを振り切って自由に生きることを望み、その実現のためにたたかうのである。

人間はここにとどまることなく、自然を手なずけて生活に必要な状況を現出させ、さらには自然の事物現象に手を加えて有用な生活手段をつくりだす。人間はまた社会も集団生活・共同生活によりよく奉仕するよう改造していく。

14. なぜ自主性が人間にとって生命だというのか？

人間にとって自主性は生命である。

人間にとって自主性は生命だというとき、その生命とは社会的・政治的生命のことである。肉体的生命は生物有機体としての人間の生命であるが、社会的・政治的生命は社会的存在としての人間の生命である。

社会的存在である人間にとって、肉体的生命より社会的・政治的生命の方がより貴重である。たとえ肉体的生命を維持していても、社会的に

見捨てられ政治的自主性を失うことになれば、社会的人間としては屍も同然である。

15. 創造性とは何か？

創造性は目的意識的に世界を改造し、自己の運命を切り開いていく社会的人間の属性である。

創造性ゆえに、人間は古いものを変革し、新しいものを創造しながら、自然と社会を自己にとっていっそう有用・有益なものに改造していく。

人間は周囲世界の事物現象を把握すると、それを改造して、新しい種子を得あるいは動植物をつくり、新しい機械・機材を発明し、新しい思想や知識、新しい社会制度を創造する。人間はこのように全く新しいものをつくりだすばかりでなく、既に到達した水準の枠内でも自然と社会に手を加えて、生活に必要なものをつくりだしもする。言いかえればそれまで人間生活に用をなさなかったか、あまり用をなさなかったものを有用・有益なものにつくりかえていきもするのである。

創造性は一部の人たちの特殊な性向ではなく、社会的人間に固有な活動方式である。

16. 意識性とは何か？

意識性は、世界と自分自身を把握し改造する活動のすべてを規制する、社会的人間の属性である。

意識性によって、人間は世界とその運動発展の合法則性を把握し、自然と社会を自己の要求に即して改造し発展させていく。

人間は、認識活動と改造活動に先立ち、思考をめぐらして自己の行動を構想し計画する。構想と計画はすべての認識活動と改造活動の第一工程であり、合目的的な認識活動ならびに実践活動を保障する基本的な要因である。つまり、人間の認識活動と実践活動は、構想を練り、計画を立て、それを実現していく過程なのであるから、人間の活動はすべて意識的に調節制御される活動だと言えるのである。

人間はまた、認識活動と改造活動の過程で不時に持ち上がるさまざまの難題や悪条件を前にして、尻ごみしたり、あるいは盲目的におし進ん

でいくのではなく、それに能動的に対応し、行動目的の達成に向けて自己の全般的活動を意識的に制御する。

17. 自主性と創造性、意識性はどのように関わりあっているのか？

人間の本質的属性である自主性と創造性、意識性は密接に関わりあっている。

自主性は創造性発現の要因である。人間は自然と社会の束縛と従属からぬけだし、世界と自己の運命の主人として生き発展しようとするため、目的意識的に世界を改造し、自己の運命を切り開いていくのである。

創造性は自主性の実現を裏うちする。人間は創造性を持つがゆえに自主性を実現することができ、創造性が高く発揮されればされるほど自主性はいっそう高く実現されていくのである。

意識性は自主性と創造性の前提である。

意識性は自主性と創造性の発現を保障する。意識性は人間の活動のすべての契機と過程を規制しつつ自主性と創造性の水準と発現程度を左右するのである。

18. 自主性と創造性、意識性が社会的属性であるという根拠は何か？

自主性と創造性、意識性は社会的、歴史的に形成され発展する人間の社会的属性である。

自主性と創造性、意識性は、人間が自然から授けられたものではない。それらは高度に発達した人間の有機体をぬきにしては考えられないが、発達した有機体そのものが自主性と創造性、意識性を生んでいるのではない。それらは社会の発生前は萌芽すら存在しなかった。人間は社会的集団をなし、社会生活を営むことで初めて自主性と創造性、意識性を持つようになったのである。つまり、それらは社会生活、社会的実践の要請・反映として生まれ、その進展に伴ってたえず発展するのである。

19. チュチェ思想によって解明された、世界の本質は何か？

チュチェ思想は、世界にたいする人間中心の見解を新たにうちだした。

チュチェ思想によって解明された世界の本質は、世界は人間によって支配され、改造される

存在だということである。

20. 世界が人間によって支配されるというのはどういうことか？

世界が人間によって支配されるというのは、自然と社会が人間の自主的な要求と利益を実現するための活動対象になるということである。

人間は世界でもっともすぐれた、有力な特出した存在である。自然と社会を形づくっているすべての事物には支配と服従の相互関係はなく、たんに相互に依存し制約する関係が存在するだけである。しかし、人間と周囲世界の相互関係は、たんなる相互依存・制約の関係ではなく、支配と服従の関係である。

ここで、世界が人間によって支配されるというとき、世界のすべての事物現象が現実的に人間によって支配されているということではもちろんない。世界には人間の支配圏外にある事物現象が数限りなく多い。しかし、それらも人類の発展に伴う人間の自主的要求と創造的能力の向上と相まって、たえずその支配圏内に入れられていくのである。

21．世界が人間によって改造されるというのはどういう意味か？

世界が人間によって改造されるというのは、世界が人間の目的意識的な活動によって、人間の要求通りに改造・利用される対象になるということである。

人間による世界の改造とは、世界の変化一般を指すのではなく、人間の自主的な要求と利益に即し人間の手によって進められる世界の変化発展のことである。

人間だけが世界改造の創造的能力を有しており、したがって世界は人間の主動的な作用と役割によってのみ、人間に奉仕する世界に改造発展させられていくのである。

世界が人間によって改造されるというのは、現実的に世界のすべての変化が人間によってなされるということではない。世界には人間の作用外で自然成長的におこなわれる物質的存在の運動変化が数限りなく存在する。しかし、人間がより有力な存在へと発展し、その役割が高まっていけば、それに応じて人間による世界改造の範囲はたえず拡がっていくのである。

22. チュチェ思想によって明らかにされた、世界の変化発展の合法則性とは何か？

チュチェ思想は、人間を中心にすえて世界の変化発展の合法則性を新たに解明した。

チュチェ思想によって明らかにされた世界の変化発展の合法則性とは、人間による世界の支配と改造発展の合法則性を意味し、それは、世界が人間の積極的な活動により、人間に奉仕する方向へと、人間の発展に相応して改造されていくということである。

23. 世界が人間の積極的な活動によって改造されるというのはどういうことか？

世界が人間の積極的な活動によって改造されるというのは、世界が人間の自主的、創造的、かつ意識的な活動によって、人間に奉仕する世界に改造発展させられていくという意味である。これは、世界の変化発展の要因が何であるかを明らかにしたものである。

世界が人間の積極的な活動によって改造されているのは、人間が世界の唯一の改造者であることに起因している。

世界はおのずと人間のための世界に変わっていくのではないし、人間以外のいかなる存在にも世界を改造する能力はないのである。世界は、人間が世界の本質とその運動法則を正しく認識・利用し、周囲世界を自己の要求に即して改造していくときにのみ、人間のための世界に発展させられていくのである。

24. 世界が人間に奉仕する方向へ改造されていくというのはどういうことか？

世界が人間に奉仕する方向へ改造されていくというのは、人間の自主性がよりよく実現される方向へと世界が改造されていくということである。これは世界の変化発展の方向がどのようなものであるかを示すものである。

世界が人間の自主性をより高度に実現する方向へ改造されていくのは、自主性の実現こそ人間活動の根本的な目的であり、活動の進展に伴い人間の自主的要求がたえず高まっていくからである。

世界の改造発展の方向は、世界の唯一の支配者・改造者である人間の活動目的によって規定

される。人間の活動の根本的な目的はほかならぬ自主性の実現にある。したがって、世界を改造する人間のすべての活動は、この根本的目的の達成方向にそっておこなわれるのである。

25. 世界が人間の発展に伴って改造されるというのはどういうことか？

世界が人間の発展に伴って改造されるというのは、世界の改造発展の水準と速度が、つねに人間の発展水準と速度に見合ってなされるということである。これは世界の変化発展の水準と速度を規定する要因を明らかにしたものである。

世界が人間の発展に応じて改造されていくのは、人間が世界を改造し変革していくなかで不断に発展し、その役割をいっそう高めていくからである。

人間は自然を改造し社会を発展させる過程を通じて、自分自身をも発展させていく。人間が発展し世界の改造発展に果たす役割がより高まると、世界の改造発展水準もさらに高まり、発展速度もいっそう大きくなるのである。

26．チュチェ思想によって明らかにされた、世界にたいする観点･立場とはどのようなものか？

チュチェ思想は、人間を中心にして世界に対応すべきだとする観点・立場を新たに解明している。

チュチェ思想によって明らかにされた世界にたいする観点･立場には、二つの内容が含まれている。一つは、人間の利益を踏まえて世界に対応する観点･立場であり、いま一つは、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点・立場である。

27．人間の利益を踏まえて世界に対応するというのはどういうことか？

人間の利益を踏まえて世界に対応するというのは、人間によりよく奉仕させるという見地で世界に対応するということである。

人間の利益を踏まえて世界に対応する観点・立場は、人間の利益を基準にしてすべての事物現象を分析･評価し、処理していくという観点･立場である。

人間が世界を認識し改造するのは、それ自体に目的があるのではなく、自己の利益を実現するためである。したがって、認識活動と実践活動ではすべて、世界の多様な事物現象をたんに客観的存在として見るにとどまらず、それらを人間の利益を基準にして分析・評価し、処理していかなければならないのである。

28. 人間の利益を踏まえて世界に対応するうえで提起される基本的な要求は何か？

人間の利益を踏まえて世界に対応する観点・立場は、二つの基本的な要求を含んでいる。

一つは、すべての活動で人間の自主的な権利と利益の擁護を最高原則とすることであり、いま一つは、認識活動と実践活動で提起されるあらゆる問題を人間の自主的な要求と利益の実現に従わせていくことである。

29. 人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するというのはどういうことか？

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するというのは、世界を自己の意思と要求

に即して目的意識的に改造していく人間の積極的活動の見地から、世界の変化発展に対応するということである。

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するという観点･立場は、人間の主動的な活動によってのみ世界が人間のための世界に改造され発展するという見地に立って世界に対応する観点・立場である。

世界は人間の積極的な活動なしには、決して人間に有益に変化するものではない。世界の改造発展はひとえに人間の積極的な活動によってのみなし遂げられるのである。したがって、世界の変化発展に対応するうえでは、あくまでも人間の積極的な活動を基本にすえるべきである。

30. 人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するうえでの基本的な要求は何か？

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点･立場には、二つの基本的な要求が含まれている。

一つは、自然と社会を改造するすべての活動で、人間をより有力な存在に育成することを

第一の工程とすることであり、いま一つは、認識活動と実践活動におけるすべての問題を人間の創造的役割を高める方法で解決していくことである。

31. チュチェ思想は、その社会・歴史原理で何を明らかにしたのか？

チュチェ思想の社会・歴史原理は、社会の本質と歴史の主体、社会的・歴史的運動の本質的特性およびこの運動で領袖が占める地位と役割がどのようなものかを明らかにしている。

32. 社会とは何か。それは何をもって構成されているのか？

チュチェ思想は人間を中心にすえて社会の本質を新たに解明した。

社会とは一口に言って、人間の集団である。人間が社会的財貨を持ち、相互に社会的な関係を結んで生きる集団がほかならぬ社会である。

社会は自然と並んで客観的に存在する世界の一領域ではあるが、自然とは区別される世界の特殊な領域であり、それが人間の集団である

ということに、自然と区別される社会の根本的な特徴があるのである。

社会は人間と社会的財貨および社会的関係をもって構成されている。

33. なぜ人間が社会の基本的な構成部分であるのか？

人間は社会の基本的な構成部分である。

社会は人間の出現とともに形成された。人間の発生以前の世界には自然だけが存在していた。人間の出現によって、世界は自然とともに社会を内包することになった。自然と区別される社会的現象はすべて人間によって起こされる、人間の生活と活動の具体的な現われである。人間のいない社会はありえない。

34. 社会的関係とは何であり、社会的関係が社会の存在と発展の必須の条件となるのはなぜか？

社会的関係は社会生活のなかで結ばれる人間相互の関係である。人間は運命開拓の必要上一定の関係をもって互いに結ばれる。人間を相互に結

びつける関係がほかならぬ社会的関係である。
社会的関係が社会の存在と発展の必須の条件となるのは、社会的関係を通じてのみ人間の集団＝社会が構成され、発展していけるからである。人間は社会的関係を結んで生き活動するときにのみ、社会という集団を形成し、その強大な力をもって社会を発展させていくのである。

35. 人間が社会的財貨の主人となるのはなぜか？

人間は社会的財貨の主人である。
人間が社会的財貨の主人であるのは、社会的財貨が人間によってつくりだされ、人間に奉仕していることと関連している。
社会的財貨は人間によってつくりだされる。もちろん新しい社会的財貨をつくりだすうえで、人間は既存の物質的および精神的財貨の制約を受ける。人間は生産手段をはじめ物質的財貨を持たずには、社会的人間としての物質生活を享受することができず、社会的思想・科学などの精神的財貨なしには社会的人間に固有な思想・文化生活を営むことができない。とはいえ、

それら社会的財貨はすべて人間によってつくりだされるのである。つまり人間が存在しなければいかなる社会的財貨も生みだされないのである。

36. 人間が社会的関係の主人となるのはなぜか？

人間は社会的関係の主人である。

人間が社会的関係の主人となるのは、人間によって社会的関係が形成され、改造発展させられていくことと関連している。

人間はその生存・発展の必要上主動的に社会的関係を結び、それを不断につくり変え発展させていく。社会的関係が人間の生活と活動に大きな影響を与えることはもちろんであるが、人間は既存の社会的関係に唯々諾々と順応するのではなく、それを自己の要求に即して改造し、変革していくのである。

37. チュチェ思想によって明らかにされた、歴史の主体とは何か？

歴史の主体にかんする問題は、社会的・歴史的運動を目的意識的に起こし、おし進めていく

担当者にかんする問題である。

チュチェ思想は、歴史の主体は人民大衆であるとして、社会的・歴史的運動の主体問題に初めて科学的な解明を与えた。

人民大衆が歴史の主体であるというのは、人民大衆が歴史の中心に立ち、人民大衆によって社会的運動が進められるということである。すなわちそれは、人民大衆こそ社会的・歴史的運動を目的意識的に起こし、おし進める担当者であるということである。

38. 人民大衆とは何か？

人民大衆とは、勤労する人たちを基本とする、自主的要求と創造的活動の共通性によって結ばれた社会的集団である。

人民大衆の構成で基本をなすのは勤労する人たちである。勤労する人たちとは、自己の創造的活動をもって社会の発展に実質的に寄与する階級・階層である。こうした意味で、人民大衆という語は勤労人民大衆と同義語としても用いられている。人民大衆の階級的構成は固定不変ではなく、社会・歴史の発展行程で変化する。

人民大衆の構成員であるか否かの基本の尺度は、かれの社会的･階級的出自ではなく、その思想である。各階層の人たちを人民大衆として結びつける思想的基礎は社会主義思想と愛国愛族愛民の思想である。

39. 人民大衆はなぜ歴史の主体となるのか？

人民大衆が歴史の主体となるのは、すべての社会的･歴史的運動が人民大衆によって起き、おし進められるからである。

どの時代であれ、社会の発展を求めるのは人民大衆であり、社会の発展をおし進めるのも人民大衆である。人民大衆はあらゆる従属･束縛からぬけだし、世界と自己の運命の主人として生きようとする本性的な要求から、社会生活のすべての分野で、自己の自主性を実現するための社会的･歴史的運動を起こす。さらに人民大衆は社会的・歴史的運動をおし進めうる無限の創造的な知恵･才能と豊かな実践的経験など、創造的な力を持っているため、社会的･歴史的運動を積極的におし進めていくのである。

40. チュチェ思想によって明らかにされた、歴史の自主的な主体とは何か？

人民大衆が歴史の主体としての地位を占めその役割を全うするためには、歴史の自主的な主体とならなければならない。

歴史の自主的な主体は、自己の運命を自主的、創造的に切り開いていく人民大衆である。

歴史の主体と歴史の自主的な主体はいずれも歴史の創造者、歴史発展の担当者であるという意味では共通しているが、自己の運命を自主的、創造的に開いていくか否かという点では違いがある。

歴史の主体である人民大衆は社会・歴史の発展とともにたえず発展し、社会･歴史発展の一定の段階に至って歴史の自主的な主体となるのである。

41. 人民大衆が歴史の自主的な主体に発展するための要件は何か？

人民大衆が歴史の自主的な主体に発展するための要件は、先進的労働者階級の出現である。

労働者階級は、人民大衆の自主性の完全実現

という高度の要求を提起し、さらにはそれを実現しうる強力な革命的力量を備えた階級である。

労働者階級の要求は、あらゆる従属・束縛から解放され、自主的かつ創造的な生活を享受することであり、労働者階級の歴史的使命は自身ばかりでなく、社会の全構成員つまり人民大衆の自主性を完全に実現することである。さらに労働者階級は集団主義を高度に体現している階級として、団結力と組織力、革命性の強い階級である。このような労働者階級が歴史の舞台に出現したことによって、人民大衆は歴史の自主的な主体になりえたのである。

42. 人民大衆が歴史の自主的な主体に発展するための重要な条件は何か？

革命軍隊を中核・主力とする人民大衆の強固な結束—これこそが人民大衆が歴史の自主的な主体に発展しうる重要な条件である。

歴史を前進させ、自己の運命を切り開いていく人民大衆のたたかいは、反動的支配階級をはじめとする敵対勢力との先鋭な対決のなかで進

められるが、それは革命武力と反革命武力との熾烈なたたかいとして発現する。したがって革命的な党と人民は必ず、反革命的暴力を撃破するに足る革命武力を持たなければならない。

人民大衆は革命武力と結びついてこそ自己の存在を維持し、反革命的暴力に依拠する古い国家社会体制をくつがえして先進的な国家社会体制をうち立て、強固に守っていけるのである。つまり革命軍隊を中核に一つに固く結びつくとき、人民大衆は歴史の自主的な主体としての地位を占め、役割を全うしていけるのである。

43. 人民大衆を歴史の自主的な主体とならせる決定的な要因は何か？

人民大衆を歴史の自主的な主体にならせる決定的な要因は、卓越した領袖と革命的党の指導である。

人民大衆は歴史の創造者ではあるが、正しい指導を得てのみ歴史の発展で主体の地位を占め、役割を果たしていけるのである。人民大衆が革命的に意識化、組織化された勢力として結束し、自己の責任と使命を全うしていけるか否か

は、正しい指導を受けられるか否かにかかっている。党と領袖の正しい指導を受ける人民大衆だけが、歴史と自己の運命を自主的、創造的に切り開いていく歴史の自主的な主体になれるのである。

44. チュチェ思想によって明らかにされた、社会的・歴史的運動の本質的特性は何か？

チュチェ思想は、社会・歴史の主体は人民大衆であるという原理にもとづき、社会的・歴史的運動は人民大衆の自主的、創造的かつ意識的な運動であるという原理を明らかにした。これがすなわちチュチェ思想によって解明された社会的・歴史的運動の本質的特性である。

45. 社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的な運動であるというのはどういうことか？

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的な運動であるというのは、それが人民大衆の自主性を守り実現するためにおこなわれるかれら自身の運動だということである。言いかえれば、それは人民大衆があらゆる従属・束縛からぬけだし、

世界と自己の運命の主人として自主的に生き発展するためにくりひろげる運動であるということである。

46. 社会的・歴史的運動を人民大衆の自主的な運動だというのはなぜか？

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的な運動であるのは、人民大衆が自主性を本性とする自主的な存在だということと関連している。

自主性を本性とする人民大衆は、あらゆる従属・束縛からぬけだし、自主的に生きることを求める。自主性は人民大衆の生命であり、自主性の擁護はかれらのもっとも基本的な権利である。自主性を生命とする人民大衆は、自己の自主性が侵され束縛されることを許そうとせず、自主性を守り、実現するために、社会発展の全領域で不断に闘争をくりひろげていくのである。

47. 人類の歴史を人民大衆の自主性をめざす闘争の歴史だというのはなぜか？

人類の歴史は人民大衆の自主性をめざす闘争の歴史である。

人民大衆は人類の長い歴史を通じて、社会的従属と自然の束縛から自身を解放するたたかいを不断にくりひろげてきた。人民大衆による社会的・歴史的運動はそれぞれの歴史的時代に各自異なった形態をとっておこなわれ、内容的にも一様でない。しかし、社会的・歴史的運動がいかに多様かつ複雑な形態をとり、性格がそれぞれ相異なる出来事をもって発現するにしても、結局それらのたたかいはいずれを問わず、人民大衆の自主性を守り、実現するためのたたかいなのである。

48. 人民大衆の自主的運動はどのような形態をとってくりひろげられるのか？

人民大衆の自主的運動は、人民大衆の自主的な生活条件をつくりだすためのたたかいである。したがってそれは、人間活動の全分野にわたり社会改造、自然改造、人間改造の形態をとってくりひろげられる。

つまり自主性をめざす人民大衆のたたかいは、社会改造、自然改造、人間改造の全領域にわたって全面的に進められるのである。

49. 社会の改造はどのような方向で進められるのか？

社会の改造は、人民大衆が階級的および民族的従属を振り切り、自主的な生活を享受しうる社会的・政治的条件をつくるためのたたかいである。

人間が自主的に生き発展するためには、自主性を蹂躙し抑圧する古い社会制度をくつがえさなければならない。人民大衆は、古い社会制度をなくし、人びとの自主性を守る社会制度をうちたてないでは、社会と自己の運命の主人になれず、自主的に生きていくこともできないのである。

50. 自然の改造はどのような方向で進められるのか？

自然の改造は、人民大衆が自然の束縛を振り切り、自主的な生活を享受しうる物質的条件をつくりあげるためのたたかいである。

人間が自主的に生き発展するためには、自然に働きかけて物質的財貨をつくりださなければならない。人間は自然を改造し征服しないでは、

自然の束縛を振り切り自主的生活を享受するための物質的条件をつくることができないのである。

51. 人間の改造はどのような方向で進められるのか？

人間改造事業は、人民大衆が古い思想・文化の束縛を振り切り、自主的な生活を享受するに足る思想的・文化的条件をつくるためのたたかいである。

人間は古い思想・文化の束縛を振り切り、自主的な思想意識と健全な文化の所有者になれなければ、自己の運命を自らの力で切り開くことも、真に自主的な存在として生き活動することもできないのである。

52. 人民大衆の自主的運動はどのような順序をもって進められるのか？

人民大衆の自主的運動は、社会発展の段階に相応して歴史的な順序をとって進められる。

人民大衆の自主的運動では、まず人民大衆の社会的・政治的自主性の実現に向けた社会改造

が第一の課題となる。
　人民大衆の社会的・政治的自主性を実現するというのは、人民大衆があらゆる形態の社会的従属を振り切り、国と社会の主人になるようにするということである。社会的従属を強いられ社会的・政治的自主性を蹂躙されている人間は、自らの尊厳と価値をとことん無視され、奴隷の運命に甘んずるほかなくなる。それゆえ自主性をめざすたたかいで第一に解決すべき問題は、人びとの社会的・政治的自主性を実現することにある。
　社会的・政治的自主性の実現問題が解決した社会主義のもとでは、自然改造と人間改造の問題が前面に押しだされ、実現されていくことになる。

53. 人民大衆の自主性をめざすたたかいが国際的な性格をおびるのはなぜか？

　人民大衆の自主性をめざすたたかいは国際的な性格をおびる。
　それは、このたたかいが自主性をめざす世界のすべての国、すべての民族と人民が固く団結

し、力を合わせてたたかう国際的な共同闘争として進められるからである。

人民大衆の自主性擁護のたたかいが国際的性格をおびるのは、一方では帝国主義諸国が利害関係の共通性から国際的連合をなして諸国人民大衆の自主性を抑圧している事情と、他方では世界の被抑圧民族と人民の歴史的地位と利害関係が共通しているという事情と関連している。

54. 革命と建設で自主的立場を堅持するというのはどういうことか？

社会的・歴史的運動は人民大衆の自主的な運動であり、ここでかれらの自主性を固く守るためには、革命と建設で自主的立場を堅持すべきである。

革命と建設で自主的立場を堅持するというのは、人民大衆が革命と建設で持ち上がる諸問題を独自の判断と決心で処理し、自力で解決していくということである。

55. 自主的立場はどう表現されるのか？

自主的立場は、革命と建設の主人としての権

利を行使し、責任を全うすることに表現される。

　ここで、人民大衆が革命と建設の主人としての権利を行使するというのは、人民大衆が革命と建設で持ち上がるすべての問題を、独自の判断と決心で、自己の利益に即して処理するということである。

　また、人民大衆が革命と建設で主人としての責任を全うするというのは、革命と建設で持ち上がるすべての問題を主人の立場を守り、自らの責任のもと自力で解決していくということである。

56. 社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的運動であるというのはどういうことか？

　社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的運動であるというのは、それが人民大衆の創造的な知恵と力によって、自然と社会を能動的に改造し変革していく運動だということ、つまり社会的・歴史的運動は、人民大衆の創造的力量をもって、自主性を蹂躪し束縛する古いものを一掃し、新しいものをつくりだすたたかいだということである。

57. 社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的な運動であるというのはなぜか？

社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的運動であるのは、人民大衆が創造性を本性とする創造的な存在だということと関連している。

創造性を本性とする人民大衆は、古いものの一掃と新しいものの創造を求める。これは、自主性をめざす人民大衆の志向によるものである。人民大衆は、その自主的要求を実現すべく自然と社会の改造を志し、ここでその創造的能力をフルに発揮して、自然と社会を改造する創造的活動を積極的にくりひろげていくのである。このように社会的・歴史的運動は、人民大衆の創造的活動によっておし進められるのである。

58. 人類の歴史が人民大衆の創造の歴史であるというのはなぜか？

人類の歴史は人民大衆の創造の歴史である。

これは、人民大衆の創造的活動によって社会的財貨が不断につくりだされ、社会的・歴史的変革と進歩がなされてきたことを指して言った言葉である。

人類の歴史が始まって以来、人民大衆は創造的労働によって自然を征服しつつ自己の生存・発展に必要な財貨をつくりだし、古いものを変革する創造的活動を通して社会の進歩を促してきた。人類が全歴史的にとげたすべての進歩と変革は、人民大衆の創造的闘争の結実である。

59. 人民大衆がくりひろげている創造的運動の特性は何か？

人民大衆がくりひろげている創造的運動の特性はまず、それが闘争を伴うということにある。

人民大衆の創造的活動は、自己の要求に即して古いものをなくし、新しいものをつくりだすたたかいである。人民大衆のたたかいによってのみ、古いものが克服され新しいものがつくりだされるのである。とりわけ古い社会制度を新しい社会制度に変える過程は激しい階級闘争を伴う。

人民大衆の創造的運動の特性はつぎに、それが自らをいっそう有力な存在に育てあげていく過程だということにある。人民大衆の創造的な

闘争過程は、人民大衆が自然と社会を改造･変革していく過程であると同時に、自らの創造的能力をのばしていく過程である。

60. 革命と建設で創造的立場を堅持するというのはどういうことか？

社会的・歴史的運動は人民大衆の創造的運動であり、したがって、人民大衆は自然と社会を改造するたたかいで、つねに創造的立場を堅持しなければならない。

革命と建設で創造的立場を堅持するというのは、革命と建設で持ちあがるすべての問題を、人民大衆の創造的な力を積極的に引き出し、国の具体的な実状にあわせて解決していくということである。

61. 社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的運動であるというのはどういうことか？

社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的運動であるというのは、それが人民大衆の意識的なたたかいによっておし進められる運動だということである。言いかえれば、社会的･歴史的運動

が人民大衆の自主的要求の実現をめざす創造的活動として目的意識的にくりひろげられていく運動だということである。

62. 社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的な運動だというのはなぜか？

社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的な運動であるのは、人民大衆が意識性を本性とする意識的な存在だということと関連している。

世界の支配者・改造者としての社会的人間の活動は、意識性に裏うちされる。人間は世界と自分自身を把握し改造するすべての活動を、自己の要求と客観的法則に即して目的意識的に進めていく。自然と社会を認識し改造・変革する人民大衆の活動は、ほかならぬ人民大衆の意識性の発現であり、結局、社会的・歴史的運動は人民大衆の意識的なたたかいによって起き、おし進められていくのである。

63. 人類の歴史を人民大衆の意識的な闘争の歴史だというのはなぜか？

人類の歴史は人民大衆の意識的な闘争の歴

史である。

人類史の黎明期における人間の思想・文化水準は極めて低く、したがって社会的･歴史的運動はほとんどが自然成長的におこなわれていた。人民大衆は長期にわたって自然を征服し生産力を発展させていくなかで、思想意識水準と科学技術水準、文化水準を不断に高めていき、その結果、社会的･歴史的運動における自然成長性は漸次減少し、目的意識性の作用範囲が拡大されてきたのである。

64. 自主的な思想意識は社会的・歴史的運動でどのような役割を果たすのか？

自主的な思想意識は人民大衆の本性的要求を反映した思想意識である。それは自分自身が自己の運命の主人であるという自覚であり、自己の運命を自ら切り開いていこうとする意志である。

自主的な思想意識は社会的・歴史的運動、革命運動で決定的な役割を果たす。

自主的な思想意識が社会的・歴史的運動で決定的な役割を果たすというのは、自主的な思想

意識が革命と建設ですべての人の役割を規制する決定的な要因だということである。

自主的な思想意識は、人びとが正しい階級的立場に立って革命の勝利めざしてたたかい、同時に革命運動に強い意志と闘争力をもってのぞむようにするのである。

65. 革命と建設を人間の思想を基本にとらえて進めていくというのはどういうことか？

革命運動は人民大衆の意識的な運動であり、したがって革命闘争と建設事業はつねに、人間の思想を基本にとらえて進めていかなければならないのである。

革命と建設を人間の思想を基本にとらえて進めていくというのは、思想的要因に決定的な意義を付与し、思想意識の役割を高めてすべての問題を解決していくということである。

思想的要因に決定的意義を付与するというのは、人びとの思想にまず目を向け、思想的要因に依拠して革命と建設に必要なすべての条件を成熟させていくということである。

思想意識の役割を高め、すべての問題を解決

していくというのは、革命と建設で持ちあがるすべての問題を技術的・実務的方法や行政的方法以上に、思想を発揚させることで解決していくということである。

66. 社会的・歴史的運動で領袖の占める地位と役割は何か？

チュチェ思想は社会的・歴史的運動、革命運動で領袖の占める地位と役割を新たに解明した。

それは、領袖は歴史の発展と革命闘争で絶対的な地位を占め、決定的な役割を果たすということである。

67. 領袖が歴史の発展と革命闘争で絶対的な地位を占めるというのはどういうことか？

領袖が歴史の発展と革命闘争で絶対的な地位を占めるというのは、領袖が革命の主体、社会的・政治的生命体の中心を占める、誰もとって代わることのできない特出した地位にあるということである。

68. 領袖が歴史の発展と革命闘争で占める絶対的地位の内容は何か？

領袖が歴史の発展と革命闘争で占める絶対的地位の内容は一口に言って、領袖が社会的･政治的生命体の中心だということである。

領袖は党と軍隊と人民を一つの社会的・政治的生命体として結びつける団結の中心である。つまり、領袖は党と軍隊と人民の思想的統一と組織的団結、道徳的･信義的統一の中心である。

領袖は社会的・政治的生命体の活動を統一的に指揮する指導の中心である。個々の人間の生命活動を指揮する中心が脳髄であるのと同様、多数の人間からなる社会的・政治的生命体の生命活動を保障する中心は、その最高脳髄をなす領袖である。

69. 領袖が歴史の発展と革命闘争で決定的な役割を果たすというのはどういうことか？

領袖が歴史の発展と革命闘争で決定的な役割を果たすというのは、革命の主体としての人民大衆の運命を切り開くうえで領袖が決定的な役割を果たすということである。

70. 領袖が歴史の発展と革命闘争で占める決定的役割の内容は何か？

領袖は革命の指導思想を創始し、さらに深め豊かにしていくことで、人民大衆に革命闘争の前途をさし示す。

領袖はまた、革命の主体を固め、その役割をたえず高めて革命を勝利へと導く。

のみならず、領袖は後継者問題を正しく解決して、革命の最終的勝利を保障するのである。

71. チュチェ思想は、指導的原則で何を明らかにしたのか？

チュチェ思想は革命運動で堅持すべき指導的原則を全面的に解明している。チュチェ思想の指導的原則には、革命と建設で自主的立場を堅持する原則、創造的方法を具現する原則、思想を基本にとらえていく原則がある。

72. 自主的立場を堅持する原則にはどのような内容が含まれているのか？

自主的立場を堅持する原則は、人民大衆が革命と建設の主人としての地位を守るようにする

ための指導的原則である。

自主的立場を堅持する原則には、思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を具現すべきだとする内容が含まれている。

73. 思想において主体性を確立するというのはどういうことか？

思想における主体の原則は、思想分野で自主性を具現するための指導的原則である。

思想における主体性の確立とは、人民大衆が革命と建設の主人としての自覚を持ち、自国の革命を中心にすえてすべてを考え、実践し、いっさいの問題を自らの知恵と力で解決していく観点・態度を持つようにすることである。

74. なぜ思想において主体性を確立しなければならないのか？

思想における主体性の確立は、革命と建設が人間の意識的な活動であるということと関連している。

思想において主体性が確立されてこそ、政

治、経済、国防などすべての分野で主体性が確立できるのである。

さらにそうなってこそ、個々の国の党と人民は自国の革命だけでなく、世界革命に寄与するのである。

75. 思想において主体性を確立するためにはどうすべきか？

思想において主体性を確立するためには、人民大衆が自主的な革命思想と、自己の党の路線と政策で武装し、さらには自国のものに精通することである。

高い民族的自尊心と革命的自負をいだくことも主体性を確立するうえでの重要な問題である。

思想において主体性を確立するためにはまた、民族文化を発展させ、大衆の文化・技術水準を高めなければならない。それに、事大主義をはじめすべての古い思想を排斥しなければならない。

76．政治において自主性を堅持するというのはどういうことか？

政治における自主の原則は、政治分野で自主性を具現する指導的な原則である。

政治において自主性を堅持するというのは、自国人民の民族的独立と自主権を固め、自国人民の利益を守り、自国人民の力に依拠して政治をおこなうということである。

77．なぜ政治において自主性を堅持しなければならないのか？

政治は社会生活で決定的意義を持つ分野である。

政治的自主性は自主独立国家の第一の表徴、第一の生命である。

人民大衆が革命闘争をおこなうのもその政治的自主性を確立するためである。

78．政治において自主性を確立するためにはどうすべきか？

政治において自主性を確立するためには、人民の政権を立てなければならない。人民大衆は

権力を掌握し、国家と社会の真の主人となってはじめて、政治的自主性を実現し、自主的で創造的な生活を営めるのである。

政治において自主性を確立するためには、これにとどまらず、主体的な政治勢力を固めなければならない。それには、革命の指導的な力である党を強化し、領袖、党、軍隊、人民の統一団結を成就すべきであり、なかんずく革命軍隊を中核とする全人民を党と領袖のまわりに固く団結させるべきである。

政治において自主性を保障するためにはさらに、自己の指導思想を持ち、自らの決心によって路線・政策を独自に決定し、貫かなければならない。ひいては対外関係で完全な自主権と平等権を行使しなければならない。

79. 経済において自立性を強化するというのはどういうことか？

経済における自立の原則は、経済分野で自主性を具現するための指導的な原則である。

経済において自立の原則を貫くというのは、とりもなおさず自立的民族経済を建設するとい

うことである。自立的民族経済を建設するというのは、他国に従属せず独り立ちする経済を建設するということである。

80. なぜ経済において自立の原則を貫かなければならないのか？

経済的に自立してこそ国の独立を固めて自主的に生きていくことができ、思想における主体、政治における自主、国防における自衛を確固と保障し、人民に豊かな物質・文化生活をもたらすことができるのである。

さらに、経済的に自立してこそ民族的不平等をなくし、民族の全面的な開花発展をとげることができ、完全な平等と互恵の原則で国家間の経済的協力を拡大発展させ、帝国主義者の経済的略奪を防ぐことができるのである。

81. 自立的民族経済を建設するためにはどうすべきか？

自立的民族経済を建設するためには、経済建設で自力更生の原則を堅持しつつ、経済を多面的かつ総合的に発展させていくべきである。

経済を現代的技術で装備し、民族技術人材を大々的に育成することも、自立的民族経済建設の重要な要請である。

さらに、自国内に原料・燃料基地を強固に築くこともおろそかにすべきでない。

82. 国防における自衛の原則を貫くというのはどういうことか？

国防における自衛の原則は、国防分野で自主性を具現するための指導的原則である。

国防において自衛の原則を貫くというのは、自らの力で自国を守るということである。言いかえれば、個々の国の人民が自らの力で自国を守りうる強力な国防力を備え、国防建設と軍事活動上のすべての問題を自国人民の利益と自国の実情に即して解決していくということである。

83. なぜ国防において自衛の原則を貫かなければならないのか？

国防における自衛は、第一に、それが自主独立国家の基本的表徴の一つだということにあ

る。帝国主義が存在する限り自衛的国防力を欠いた国は、事実上完全な自主独立国家だとは言えないのである。

国防における自衛はつぎに、それが国の政治的独立と経済的自立を軍事的に支える担保だということにある。国防において自衛の原則を貫いてこそ、帝国主義の侵略と干渉を排し、国の政治的独立と経済的自立ひいては社会制度と人民の安全を守ることができるのである。

84. 国防において自衛の原則を貫くためにはどうすべきか？

国防において自衛の原則を貫くためには、自衛的武力を持ち、全人民的・全国家的防衛体制を確立しなければならない。そのためには、全軍を幹部化、現代化し、全人民を武装させ、全国土を要塞化しなければならない。

また、革命武力の政治的・思想的優位性を高度に発揮させなければならない。

自らの国防工業を建設することと、後方を強化することも重要である。

85．創造的方法を具現する原則には、どのような内容が含まれているのか？

創造的方法を具現する原則は、人民大衆に依拠する方法と、実情に即しておこなう方法とを内容としている。

人民大衆に依拠する方法と実情に即しておこなう方法は、人民大衆の役割を最大限に高め、かれらの革命的熱意と創造的積極性を高度に発揮させ、革命と建設を高いテンポで進める方法である。

86．人民大衆に依拠するというのはどういうことか？

人民大衆に依拠するというのは、人民大衆の力に信を置き、かれらの創造力を引き出して、革命と建設上のすべての問題を解決していくということである。

87．革命と建設をなぜ人民大衆に依拠しておし進めなければならないのか？

革命と建設を人民大衆に依拠しておし進めていくのは、革命と建設をおし進める決定的な力がほかならぬ人民大衆にあるからである。

革命と建設をりっぱに進めるうえで決定的な役割を果たすのは、無限の創造的能力を有する人民大衆である。人民大衆に依拠してこそ、いかに困難な問題もりっぱに解決し、革命と建設を力強くおし進めていけるのである。

88. 人民大衆に依拠して革命と建設を遂行するうえで重要なことは何か？

人民大衆に依拠して革命と建設を遂行するうえで重要なのは、大衆の要求と志向を反映した路線・政策を立て、それを大衆自身のものにすることである。

また、大衆を一つの政治勢力に結集し、革新を妨げるあらゆる古いものに反対してたたかうこととならんで、革命と建設をおし進める大衆的運動を広く展開することである。

これとともに革命的活動方法を確立することが重要である。

89. 実情に即しておこなうというのはどういうことか？

実情に即しておこなうというのは、すべての

問題を変化発展する現実と国の具体的な条件に即して創造的に解決していくということである。

90. なぜ革命と建設を実情に即しておこなうべきなのか？

革命と建設を実情に即しておこなうのは、革命と建設が異なる時代的条件のもとで、また個々の国の具体的な環境のなかで進められるからである。

革命と建設では、どの時代、どの国にも一様に当てはまる処方というものはありえない。したがって、つねに現実から出発し、すべての問題を実情に即して創造的に解決していくべきなのである。

91. 革命と建設を自国の実情に即して進めるうえで重要なのは何か？

革命と建設を自国の実情に即して進めるうえで重要なのは、自国革命の主体的・客観的条件を十分に考慮し、それに見あった路線と政策、戦略戦術を規定することである。

さらに、既成理論にたいして正しい観点を持つことである。既成理論の命題や公式にたいしては、それがどのような時代の要請を反映したものであり、またどのような前提のもとに生まれたかを知り、そのうえで自国の具体的現実と特性に即して適用すべきである。

革命と建設を自国の実情に即しておこなううえで重要なのはまた、当代の歴史的条件と自国の具体的な実情に即して革命と建設の新たな原理と方途を積極的に探しだすことである。

92. 思想を基本にとらえる原則にはどのような内容が含まれているのか？

思想を基本にとらえる原則は、思想改造および政治活動の優先を基本的な内容としている。

思想を基本にとらえる原則は、革命と建設で自主的立場を堅持し、そこに創造的方法を具現するという原則である。

外国の経験にもまた、批判的、創造的な態度でのぞむことが重要である。

93. 思想改造をすべての活動に優先させるというのはどういうことか？

思想改造をすべての活動に優先させるというのは、人びとの思想意識を改造し、かれらを真の社会的人間につくりかえていく活動を他のすべての活動に優先させるべきだということである。

94. 思想改造優先の必要性はどこにあるのか？

思想改造優先の必要性は、それが人びとを真の社会的人間につくりかえるうえで基本となるからである。

それに思想改造が、物質的生活条件の改善や文化・技術水準の向上に比べていっそう難しい、一つの深刻な革命だということにある。

95. 政治活動を優先させるというのはどういうことか？

政治活動を優先させるというのは、他のすべての活動にさきがけて、人民大衆を党の路線と政策で武装させ、かれらの革命的熱意を呼び起

こすことで、かれらが高度の自覚と積極性をもって革命闘争と建設事業に積極的に参加するようにさせるということである。

96. 政治活動優先の必要性はどこにあるのか？

政治活動優先の必要性は、革命と建設の遂行上政治活動が必要不可欠であるからである。

革命と建設は人間がおこなうものであり、したがってその成否は対人活動いかんにかかっている。対人活動は本質において政治活動・思想活動である。したがって、革命と建設を成功させるためには、人びとを思想的にふるいおこす政治活動を優先させなければならないのである。

97. 政治活動優先原則の具現で重要なことは何か？

政治活動優先原則の具現で重要なことは、政治活動の優先とあわせて行政・実務活動、技術・経済活動をこれに正しく結びつけることであり、政治的・道徳的刺激に主眼をおきながらも、これに物質的刺激を正しく結びつけることである。

重要なことはつぎに、科学的かつ革命的な政

治活動方法に依拠することである。政治活動は説得と教育、さまざまな形式と方法を駆使し、大衆が革命と建設を自身の活動として、革命実践と密接に結びつけておこなうようにすることである。

98. チュチェ思想が歴史に占める地位は何か？

チュチェ思想は、革命思想の発展上もっとも高い段階で完成された偉大な革命思想である。

チュチェ思想は従来の哲学思想とは根本的に異なる、人間中心の哲学的原理にもとづいて展開されたもので、人間の運命開拓の道をもっとも正確に解明しており、そこでは革命的世界観に欠かせないあらゆる内容が全面的かつ完璧に含まれ、解明されている。

チュチェ思想はまた、現時代と全歴史的時代を代表する偉大な革命思想である。

チュチェ思想は、人民大衆が歴史と自己の運命の主人として登場し、民族解放、階級解放、人間解放をめざしてたたかううえでの、今日の革命実践上のすべての問題に完璧な解答を与えて

おり、さらには世界的範囲で人民大衆の自主性が完全に実現される未来社会の問題をも包括している。

99. チュチェ思想の研究・普及活動は世界的にどのようにおこなわれてきたのか？

1969年4月、マリ高等師範学校の教員・学生によって金日成同志の著作研究グループが結成されたのを皮切りに、世界の多くの国でチュチェ思想研究組織がつくられ、つづけてチュチェ思想の研究・普及をはかる全国的または大陸別の機構がつぎつぎに立ち上げられて、1978年4月には、全世界的なチュチェ思想研究組織であるチュチェ思想国際研究所が創立された。

現在世界には、110余の国に1000余の研究グループが存在し、それらと27の全国委員会、四つの大陸別機構、それにチュチェ思想国際研究所をもって、ピラミッド型の整然としたチュチェ思想研究・普及体系が構成されている。

この組織体系に支えられて、世界的範囲でチュチェ思想の研究・普及活動が活発に進められている。

チュチェ思想国際研究所理事会は、2011 年 4 月の執行委員会第 13 回拡大会議で金日成主席の生誕 100 周年を迎える 2012 年の太陽節（4 月 15 日）に際し、チュチェ思想の創始国朝鮮民主主義人民共和国の首都平壌（ピョンヤン）で、チュチェ思想世界大会を盛大に開催することを決定した。

100. チュチェ思想世界大会はどのような意義を持つのか？

チュチェ思想世界大会は、不滅のチュチェ思想を創始し、人類思想史に輝かしい業績を残した金日成主席の生誕 100 周年を人類史的な大慶事、大政治祭典として盛大に記念することに大きく寄与するであろう。

また、チュチェ思想の旗のもと朝鮮革命と世界自主偉業の実現に積み上げた金日成主席の不滅の業績をたたえ、チュチェ思想の正しさと生命力が、金正日総書記の先軍思想と先軍政治によってりっぱに継承されていることを誇示する歴史的な契機となるであろう。

チュチェ思想世界大会はまた、世界全大陸のチュチェ思想研究組織とチュチェ思想信奉者の

活動に活力を与え、チュチェ思想の研究・普及活動がより積極的にくりひろげられていくようにする重要な契機となるであろう。

チュチェ思想問答

出版：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発行：チュチェ101(2012)年3月30日

ㄱ－2835026

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.naenara.com.kp

朝鮮・平壌
チュチェ101(2012)

ISBN 978-9946-0-0823-3
9 789946 008233 >